

震災の日の神戸大は…

1995年1月17日早朝5時46分に発生した阪神・淡路大震災。そのとき、神戸大生はどう行動したのか？ 神戸大周辺はどのような事態になっていたのか？

落研の後輩たちの安否確認に奔走した 落語家・桂吉弥さん（当時・教育学部5年）

灘区記田町の「福寿荘」っていう下宿アパートの3階で寝てましたね。

ドーンって揺れて、ザンザンザンザン揺れだして。頭から布団かぶって、えっなんやわからん、何が起きてるんや、夢じゃなかろうかみたいな。

窓を開けると、電柱が途中から真っ二つに折れてました。なにかガスのおいが漂ってきて。これは、とんでもない大きな地震やなと思って。

落語研究会の後輩たちは大丈夫かなっていうのが頭に浮かびました。いろいろ情報が集まってきて、後輩の下宿の1階が潰れてるって。彼の部屋がないって…。



研究室から街を見ると何本も煙が 里田明美さん（当時・自然科学研究科修士1年）



灘区高羽町のアパートの1階で寝ていました。下から突き上げられて目が覚めました。そのあと左右に大きく揺さぶられて…。ベッドから落ちないように片手でベッドをつかみ、揺れが収まるまで待ちました。

六甲道周辺の風景は一変してました。鉄道の高架が落ちていました。

研究室にどんどん学生が集まってきていて。神戸の街を見ると、いくつか煙が立ち上っていました。でもサイレンの音は聞こえない。〈現・中国新聞社勤務〉

詳しい証言の全文はブログ (https://blog.goo.ne.jp/kobe_u_media) にアップしています。（→QRコードからアクセスできます）

